

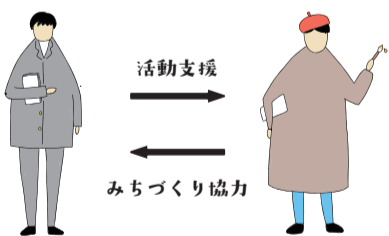
つながる、 つくる

これまでの“見て”楽しむミュージアムロードから、
“作って”楽しむミュージアムロードへ。
ここでは誰もがアーティスト。



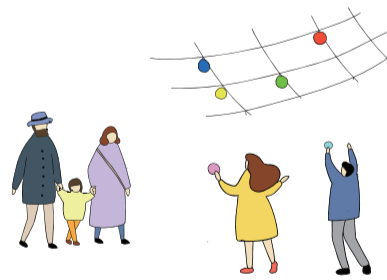
1. みちづくり

アーティスト・イン・レジデンスの一環として、アーティストはミュージアムロードで活動します。神戸市はアーティストの活動を支援する代わりに、彼らにみちづくりをお願いします。



アーティストが活動する様子がみちに見えることで、普段何気なくミュージアムロードを通る人たちの目を引きまします。

ちょっと興味が湧いたら、みちの途中にある創作スポットへ。通る人も次第にみちづくりに参加していきます。

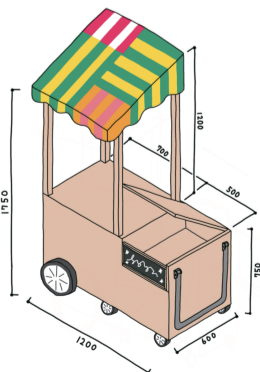


やがてミュージアムロードはみんなが「通る」みちからみんなが「作る」みちに！神戸がアートに興味を持ち、関わっていくきっかけの場となります。



2. アーティストワゴン

ミュージアムロードで活動するアーティストは、ゆとりある道や広場を活かして創作活動を行います。ワゴンを引っ張って、創作したり自分の作品を販売したり。建物の中で行われていたアートが、自然と道に溢れ出します。

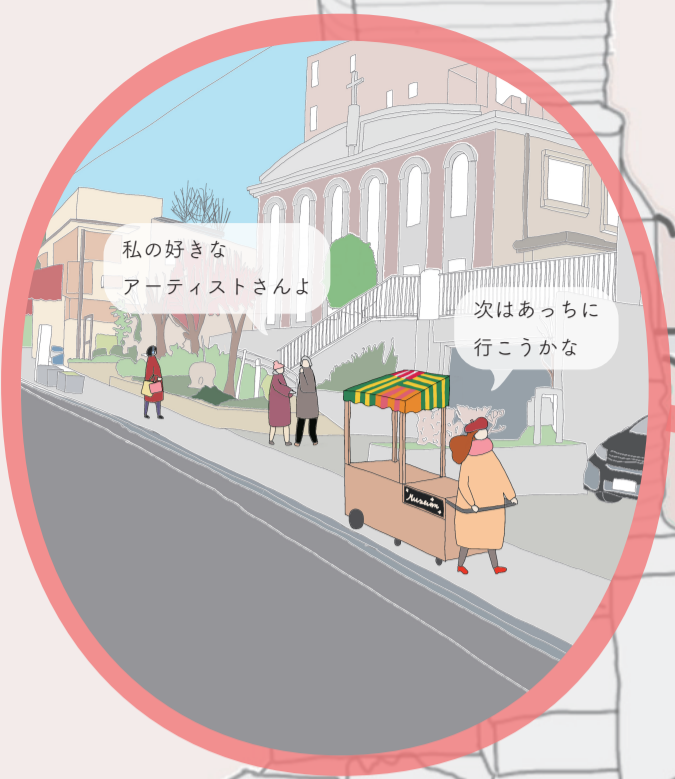


3. つながるスポット

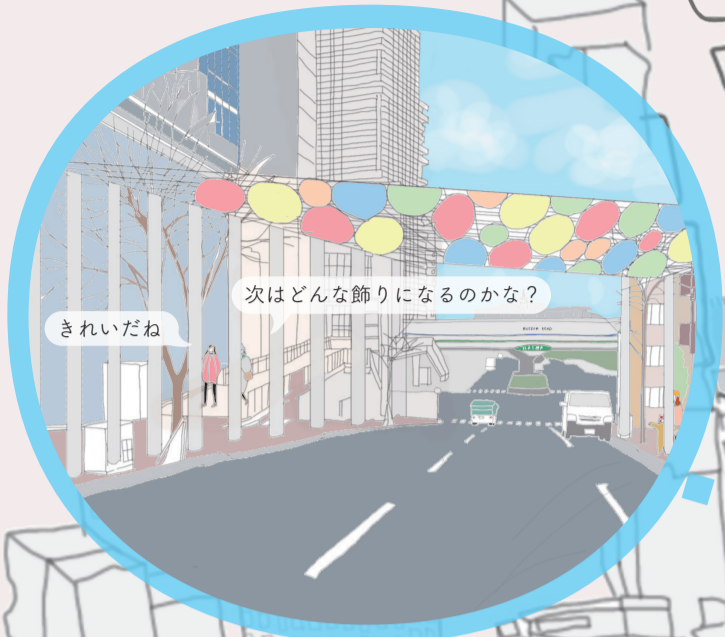
元々あるアートスポットに、体験できるスポットを加えることでスポットの密度を増やします。そこにアーティストワゴンが走ることで、さらに点々としたスポットは線に繋がります。



【北側マップ】



【南側マップ】



4. 少し先の未来へ

アーティストから始まった活動は、少しずつ市民やまちを訪れる人へと広がっていきます。長い時間をかけてみんなでつくるミュージアムロードは、いつしか神戸の新たな文化の一つに。